



皇朝二十四孝

二十四孝を元の郭氏の撰
ふやうなや今遠く我
國は傳へりてはかゝらば
貝拾ふ海士の兒も其行を
知るゝそ功ねるはあま

とくくーちの國のちか
るふやうなや今遠く我
國は傳へりてはかゝらば
貝拾ふ海士の兒も其行を
知るゝそ功ねるはあま

我父の教を遠く傳へ
の徳を世に傳へ
此業をすべし
孫の徳を傳へ
皇朝の千四百年

かゝる徳を傳へ
我父の教を遠く傳へ
の徳を世に傳へ
此業をすべし
孫の徳を傳へ
皇朝の千四百年

からむらやをむね
あはれと見ゆる僕らむ
あふねをむね書はる
あふねをむね書はる
あふねをむね書はる

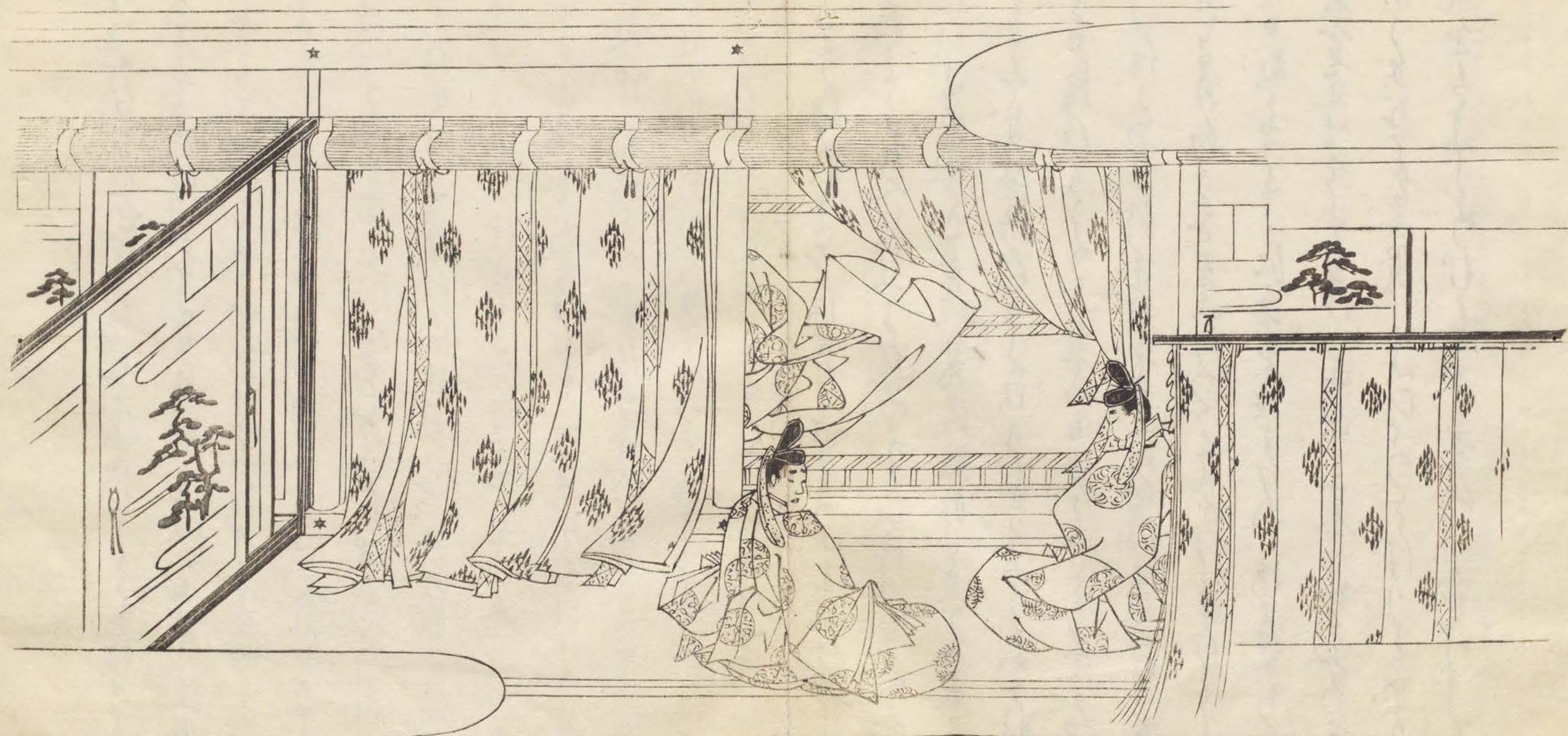
あふねをむね書はる
あふねをむね書はる
あふねをむね書はる
あふねをむね書はる
あふねをむね書はる

の事云々哉えらむ家
國人おのれをくちをわたり
ひろくはせぬはくちをくち
くちくちくちくちくち
くちくちくちくちくち
くちのくちくちくちくち

安政三年初秋

源容保謹識





みづからさうせむらぬ帝やむしむるに
あつては位よりさへひたり一日帝高殿
お登りて遠くをみえ給ふ飯うゝ烟を
たりけれは百姓の食ひさゆふなりと
おほしと三年の間高殿をさめたる御殿に
雨の如く葺たすはあはれと破れと
あつてさうに民をさめたるも
五穀ゆふれさうにたりたりかて
高殿より登りて見給ふ飯うゝ烟を
さう國とも家ともさへられ百姓を
聖帝とむもさうにけり日本紀竟宴乃
うゝれもけ帝をさめさうに
高殿のゆふれさうに天の下を
いさうとみぬ

顯宗天皇

顯宗天皇れ御父を市邊押磐命とす
けり雄略天皇に殺されたりひれ
御兄億計王と其難をぬとせたり
よ播磨國のかみと清寧天皇
沸るすすけり帝をさ



皇子と御母の御心を終ひぬるに天津日嗣
———て後御父の法墓を終ね
るも御心を終ひぬるに天津日嗣
を一人の老姫ありて心を終ひぬるに
るも御心を終ひぬるに天津日嗣
とせし御心の億計年ともし老姫を
———て近江國蚊屋をよみて
御墓を極く御心を終ひぬるに
———ふも御心を終ひぬるに
も御心を終ひぬるに天津日嗣
———は後内佐伯仲子押磐命に
———たひたて御心を終ひぬるに
田穴ふら———は御心を終ひぬるに
御心を終ひぬるに天津日嗣
上齒おらて御心を終ひぬるに
よも御心を終ひぬるに天津日嗣
くれとさるるに天津日嗣
てすこし御心を終ひぬるに
二條の山陵をよみて御心を終ひぬるに

仁明天皇

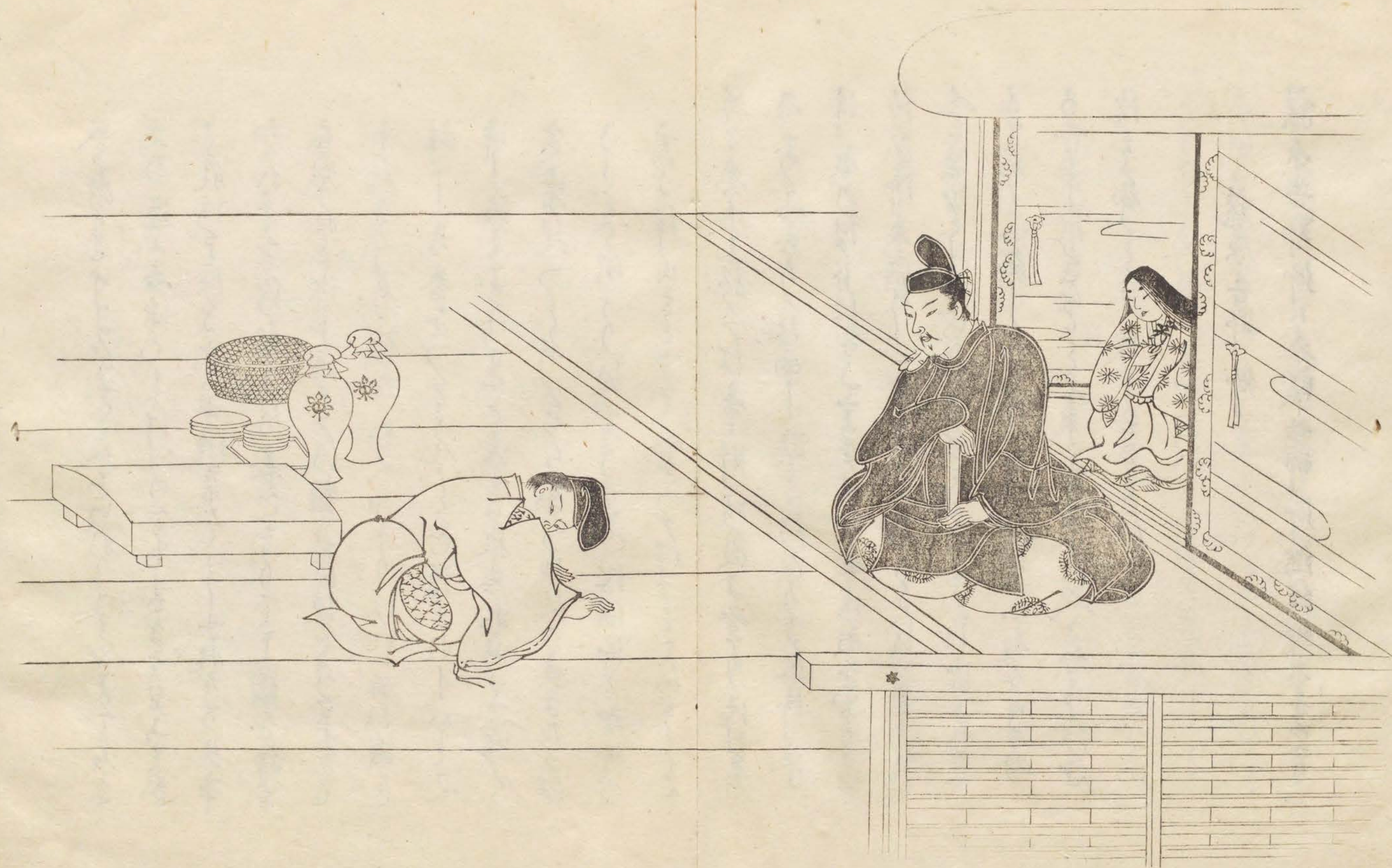
嘉祥三年の春正月みくに太皇太后は



冷泉院よりを移りて親王以下御酒宴ありて
各編みしなまひくんと帝ははははありて御
んとせしを移りて南階よりくちの御紙を
して跪き移した大長源常公右大臣良房公を
召し移し移し大后乃おほを移りやうわれ
常に移され中にしるしを移し帝は御車
よまはし移し移し移し移し移し移し
移し移し移し移し移し移し移し移し
奏されしは弘いしを移し移し移し
みし移し移し移し移し移し移し
めと奏し移しは帝則法殿よまの御車
乃まゝ移し移し移し移し移し移し
御殿乃階下にしを移し帝法殿をよりせ
移し御車にし移し移し移し移し移し
今涙をくし移しは天子のまゝに御車を
りてかくし移し移し移し移し移し
のまゝ移し移し移し移し移し移し
移し移し移し移し移し移し移し
移し移し移し移し移し移し移し

藤原吉野卿

藤原吉野卿ハ参議兵部卿細繼卿乃子なり



人との心ゆくまゝに衆をいひさしをりて名を
文乃道と志深く一はのりも書をきかふを
それとける官ハ申納言申てすまれり先帝
かゝるを給ひ一は表をもちても職を辞せ
らるれと許し給ひ頼りに使をりてひて
しれをめ給ひぬ父をりけれハ再び職を
辞一孝養をつとめんを謂れ一かとい
作し給ふはもと孝養れ志極めく深く
定省れつとめいふつゆ父の意となは
るるれりいふもいふも信繼即吉野卿の
家ハ鮮肉をてて人をつとめていふもを
るるれり吉野にやめなれりいふも唐人
をいふもいふもいふも吉野にゆりて
其事をいふもいふも唐人をいふもいふも
身をいふもいふも肉をいふもいふもいふも

藤原伊周公

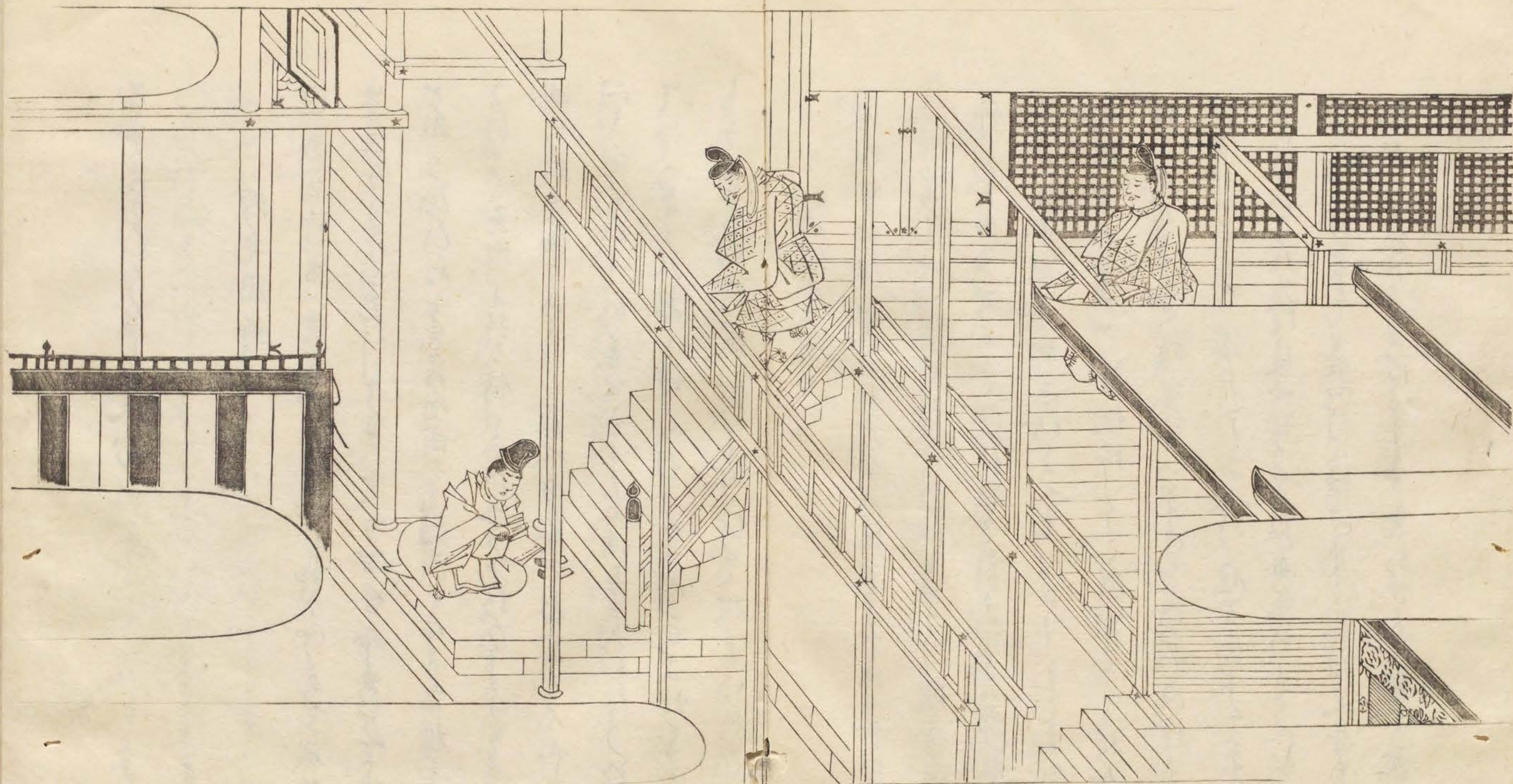
藤原伊周公罪ありて太宰権帥より左遷され
給ひりし中母遠より別をいふに給ひりしを
追て山崎寂光院より行きていふに伊周公起りて
いふにぬ帝よりいふもいふもいふもいふも
唐國に居りていふもいふも母朝夕いふもいふも



なす悲れあまの病の赤あつたけひぬを冬に
あつて病赤くおむうけくをけひくを
一度はせめてわををみる事をほてあつたけを
せれらるる更よけしと明れ其しをそのみえ
中より伊用公もけしをけけひくをれも
今一度母よりえもして母のけしをを
けめあつてせはたけけけけしを身と失
けもあつたけけけけけけけけけけけ
母よりえけけけけけけけけけけけ
ようけけけけけけけけけけけ

源雅實公

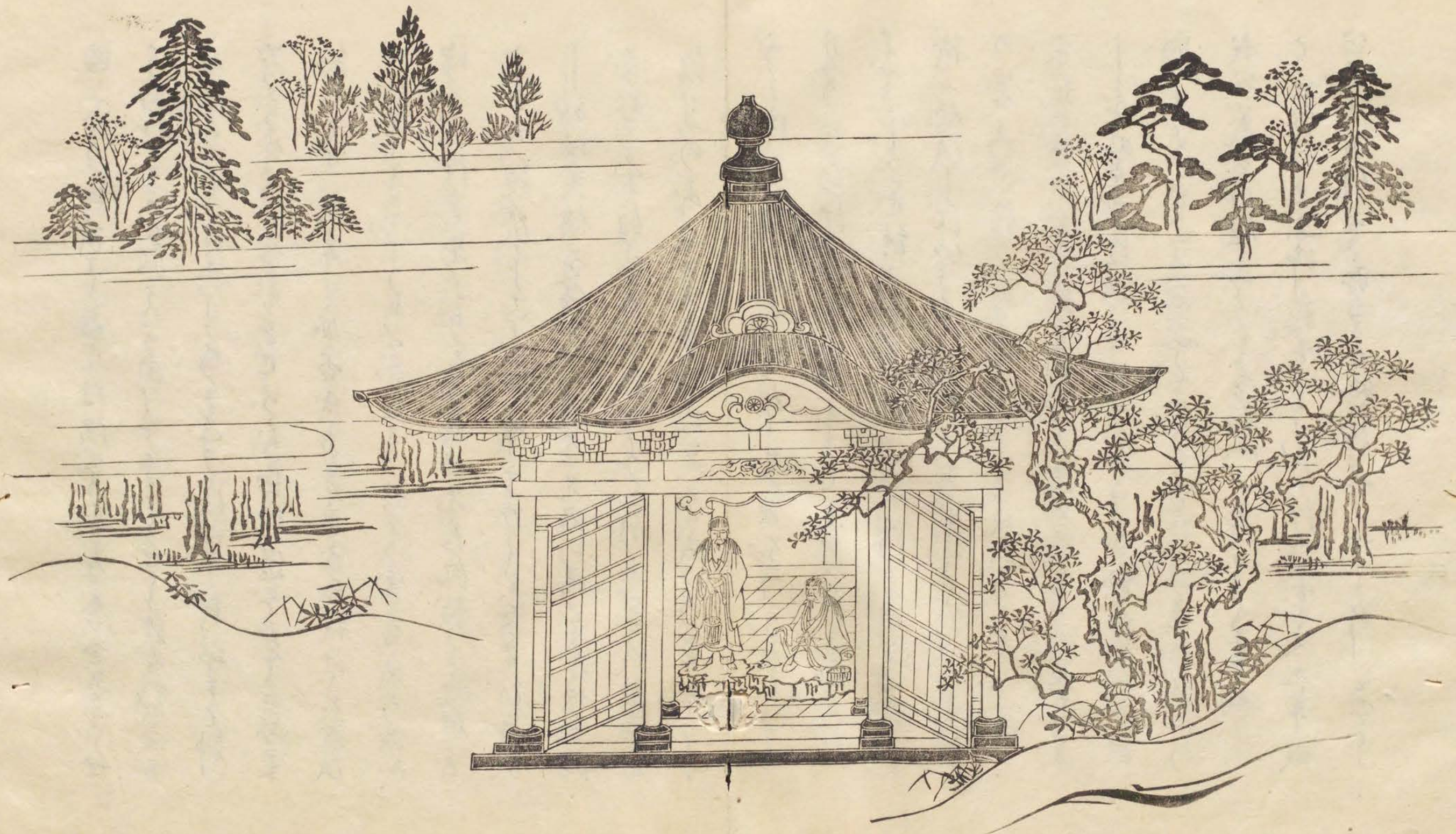
源雅實公は右大臣顯房公乃弟子とて母ハ隆子
とて中納言隆俊卿の妹女なり顯房公隆俊
卿ハ大内をえけけけけけけけけけけけ
たけけけけけけけけけけけけけけけ
所のあつて隆俊卿のけけけけけけけ
煩きけけけけけけけけけけけけけ
あつたけけけけけけけけけけけけ
あつたけけけけけけけけけけけけ
けけけけけけけけけけけけけけ
けけけけけけけけけけけけけけ
けけけけけけけけけけけけけけ
けけけけけけけけけけけけけけ



をさうさうくうとれむ

源光圀卿

源義公沛名ハ光圀沛字ハ子龍とやえて威公れ
弟三子とせしむる六歳の時台命ありてせま
とめり給ひぬ七歳の時威公より隠ひあるを極る場
へ行て死刑より行り給ひぬを給ひぬとてその
威公試みはくわく——罪人の首をおしめんとやと
いふ給ひぬに義公少くも涙をみよかぎり給ひぬ
て作のまゝにぬき給ひぬとて岡あふむをもちと
めせらるる涙たたりて探さる給ひぬ——
うし中力あつた給ひぬを其後をつつみ給ひぬ
はる給ひぬけり十二歳とて馬にのり又水とれ
るを——と能くせられぬ給ひぬ川よりゆきて
試み給ひぬに給ひぬ「瀬をいふとくたふふ白
の岸より給ひぬ威公を業の勝れぬをほめて
宗近の短刀をそ賜もせける威公元より「別當
しとせぬ給ひぬに読の事をも減み給ひぬに
いふも——とをきき給ひぬを給ひぬをきき給ひぬけり
威公義公の腹ふくむ人ふおほく事をも——
らせ給ひぬ大少少龍をいふけり寛文元年威
公國よりおぼして病をうせぬとて——



國より召ひてあらぬ隙ありて孝養を要せし
らしかるを思ひてあらぬ隙ありて孝養を要せし
るものもあらぬ隙ありて孝養を要せし
わらう浮屠れどもあらぬ隙ありて孝養を要せし
終ひたりて孝養を要せし
妻の事をしりてあらぬ隙ありて孝養を要せし
浮りけりてあらぬ隙ありて孝養を要せし
をすり終ひてあらぬ隙ありて孝養を要せし
一か伯夷傳を修て國を兄君の世子ふ傳へ終
るむとあらぬ隙ありて孝養を要せし
終りて一日兄召れりてあらぬ隙ありて孝養を要せし
あらぬ隙ありて孝養を要せし
國を弟の事をしりてあらぬ隙ありて孝養を要せし
一事を元よりあらぬ隙ありて孝養を要せし
心久しかりてあらぬ隙ありて孝養を要せし
一しつぬあらぬ隙ありて孝養を要せし
をすり終ひてあらぬ隙ありて孝養を要せし
終りてあらぬ隙ありて孝養を要せし
世継とせんりてあらぬ隙ありて孝養を要せし
りて封を賜ふてあらぬ隙ありて孝養を要せし
とあらぬ隙ありて孝養を要せし
をすり終ひてあらぬ隙ありて孝養を要せし

頼重朝臣をよすめていそれは是より
なるに終るはゆきと大事にやより侍ら御
まけくや入候といひれは頼重朝臣を
をぬいて許されぬ義公大に候を終ひて世継
とありしよりさうにぬ封を継つて終ひては
りては下サセ人の識事と定めての事ひたる
は二年に月を續くよく試みうは失錯少
うとく大方前政の事なやよく改むたは害
とぬ事多し二年父の事を改むとなく
りて事のなるに候といひては是より
とありしよりいけ

大江舉周

大江舉周朝臣重病をより頼重すくめえ
けれ母赤深弟門住吉明神の祐に詣りて
家命をやりてふれ命を助け終ては終り
永理し七日のち終て一首のうたをよめ
るかゝるにとめははなはたかゝるに
利きんしと悲しき神威やきん舉周朝臣
を痛程あつくけりかゝるは舉周朝臣は事
を聞くとふ終りたりは家命よりとも母を
失ひてはなるに遠よりむなりとていそれは



乃法ふを統て我命助ることも母を失ひあし
ゆゑに涙をういて我命をやりて母を助
け給へし泣くおとくれの涙も雲より情と成り
らん母をうたへしうけり

役小角

役小角は大和國

高木上郡常原村に

しるし人なりけり

佛のふたをさひり

咒術を能きり

と十二歳なりとて

出く高木やまに

五穀を食ふは食りて

本買なりとて朝夕

食とせりいづれも

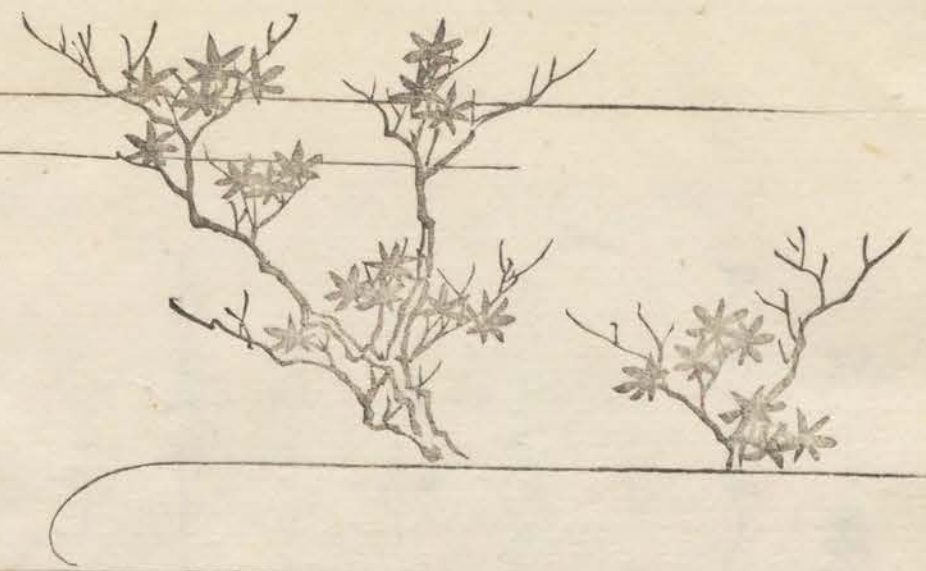
鬼神をうたへし水も

飲む

り從はるなり

咒をうてとけりけぬ韓國

廣足小角よほひと



其能を妬み妄りに妖術を以てしるを
惑はせしむる後云々々々

文武天皇の二年に詔して小角を

捕へしめたりし大空に龍翔して

えりては早きなり

そ母を捕へしめたりし小角悲しに

堪ふことなかりしを

伊豆島の流されしを救ふこと免はれ

けるをのしんぬを鉄蹄しきとて

て海を極

唐ふりしなり

倭果安奈良許知麻呂

倭果安奈良許知麻呂はとも大和國添下郡の人

なり父母に孝なり兄弟に睦なりて知ら

しれりしなり糧をお運はるるなり

ありしなりなりなりなりなりなり

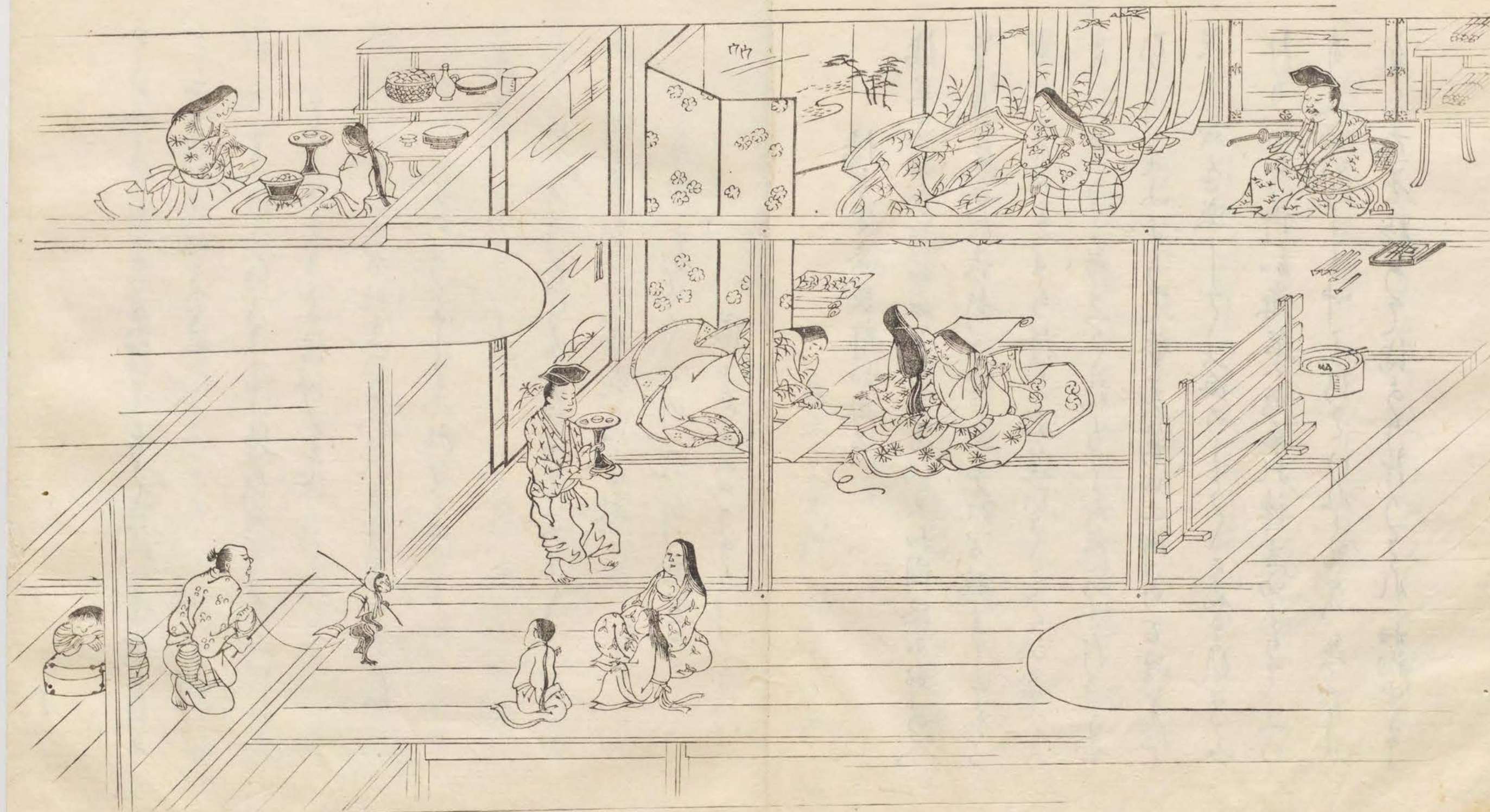
ひたりしなりて登美築田二郷の百姓を治む

其忠義を感へしなりなりなりなり

けりなり許知麻呂は能く言ふなり

なり出いしなりなりなりなりなり

なり吉原にありて治めりなりなり







され苦とも耐えぬ官奴となりて

父の罪をまぬがはらん

しを象へりそれいづこ

いほくれはうやうやう

まのきむとて

祖父麻呂を官奴とす

石勝る罪をゆる

又麻呂をのこ流しおひかり

かそこのふり

祖父麻呂を

さしゆる

良民とす

なり

信ひけり

紀夏井

紀夏井ハ美濃守美岑うまなり温和りて

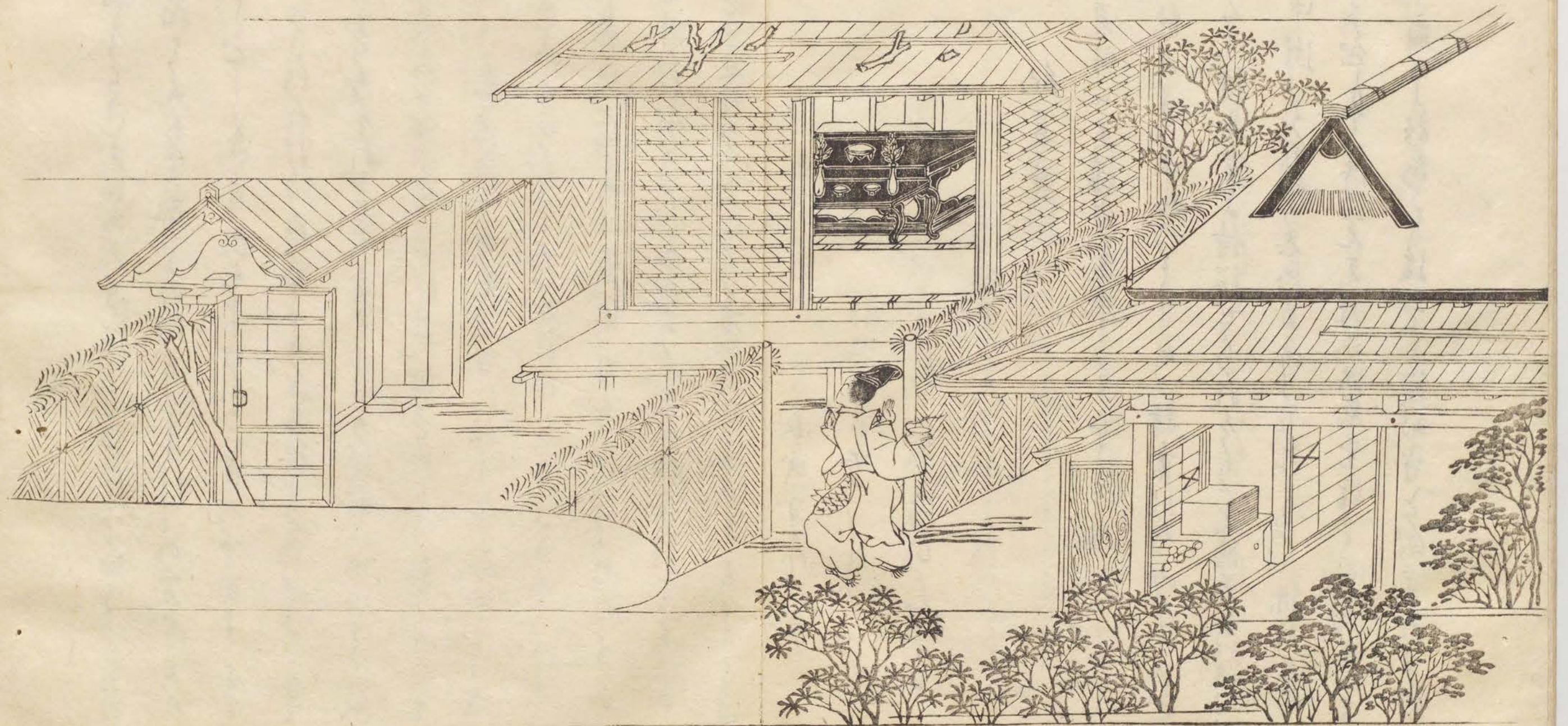
才能ありと承和のころに隸書に巧みなるを

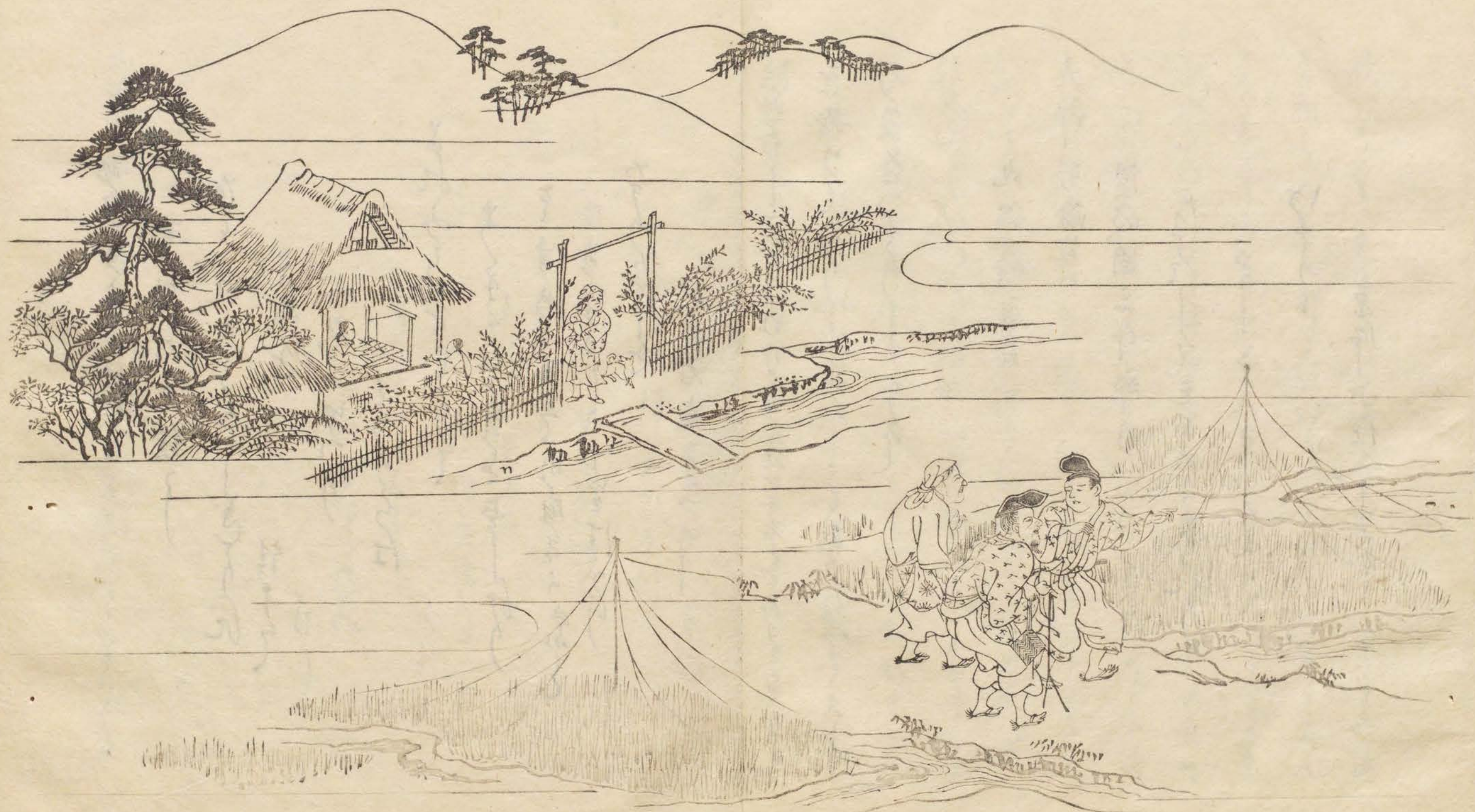
めりて授文堂と待召せられり文徳天皇元時

右中納言とれり志忠直みこなりて練めなり

けりをりて神皇元孫ふは恩寵深うりき天安二年

帝崩しおひき後出く後岐守とめをけるに





ゆき多うとけれと

本部の大領

なまれくさくさーとけり

を織を

後と

又よゆり

うらうらは

ふれみくさくさーと

あまそとききとおけり

そすめあそめ麻をうきと

あまそととすけり

なつとくさ

父母老衰とけり

定省の勤りに

あまれけり

國司具り其旨をいへ

あけくれ

嘉祥元年に

詔して位と階を進め

くれ

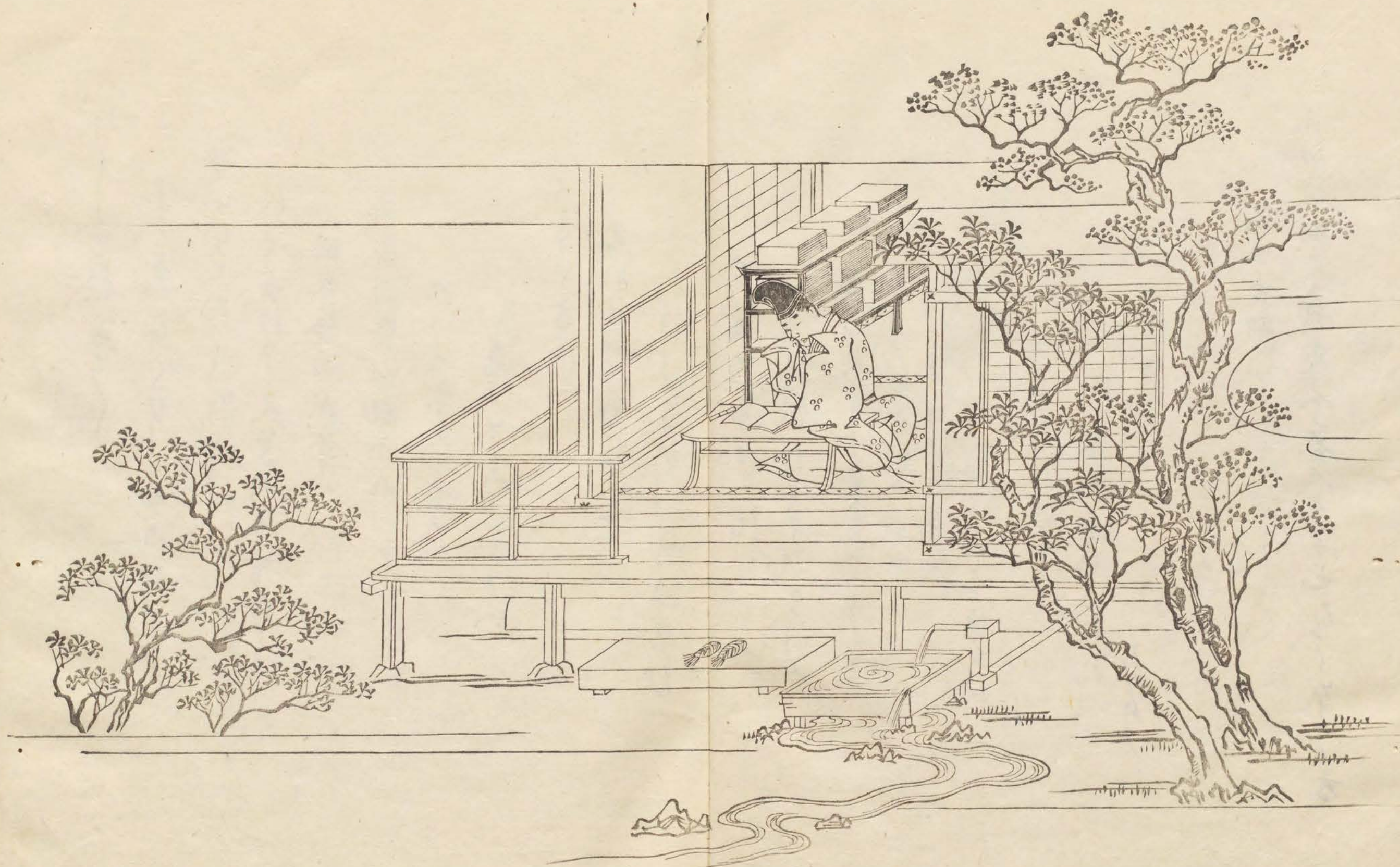
あまそとくさ

田租をゆけれ

けり

山田古嗣

山田古嗣を越前介益人ともせりなりき



行々々々

糸子 幼子

母小兒從母

江戸文藝の好む

樹欲靜而風不止

子欲養而親不在

とりかへ

高木 孝之助

うき書

如月と月如後父を

うなづきよき

しんがく

供之太師兄玉照

公卿受議

あまのふりしるふに
必問正し
如くぬ

又文人を以て

帝孔師家小可也

昭和十年阿波介

任
一
は
の
政
は
う

蘇州府志

丹生弘吉



丹生弘吉は若狭國

遠安郡乃ひくぬり幼く

して父におれ母にすめり

とつら耕しつらふて

母をやしなひよくをきき

夏はとて

ふゆは温く聊も母のまに

まゐる事なりきにありあふ

父の墓に訪ふさひ哀む

しと恨み

弘吉う作きつ田畑の水旱

風壇にあり

侍をれふらふもふらふ

けり

里人のま子のまに

神も懐みぬ

かゝるあふ

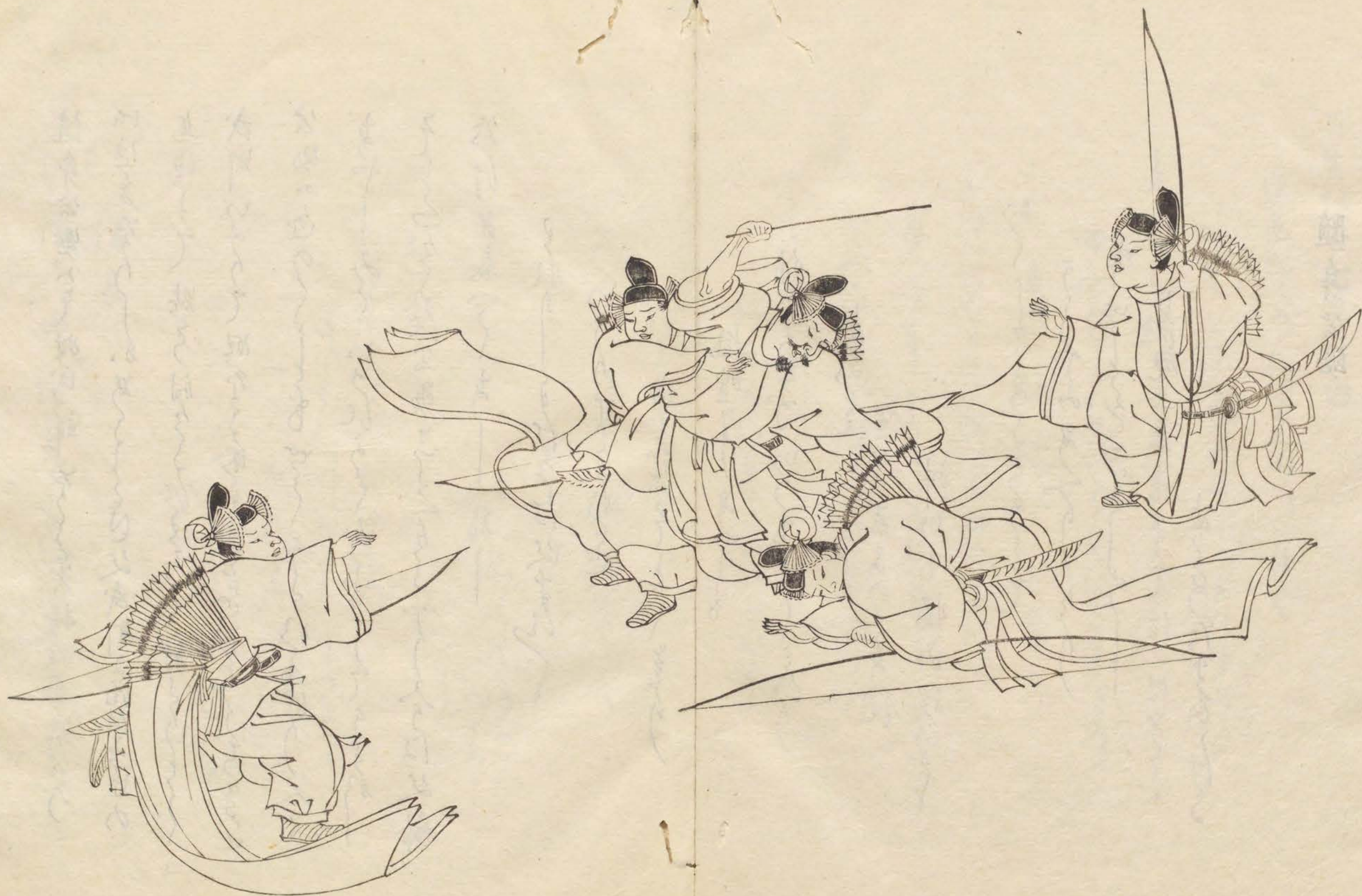
うもみふり

帝はとて

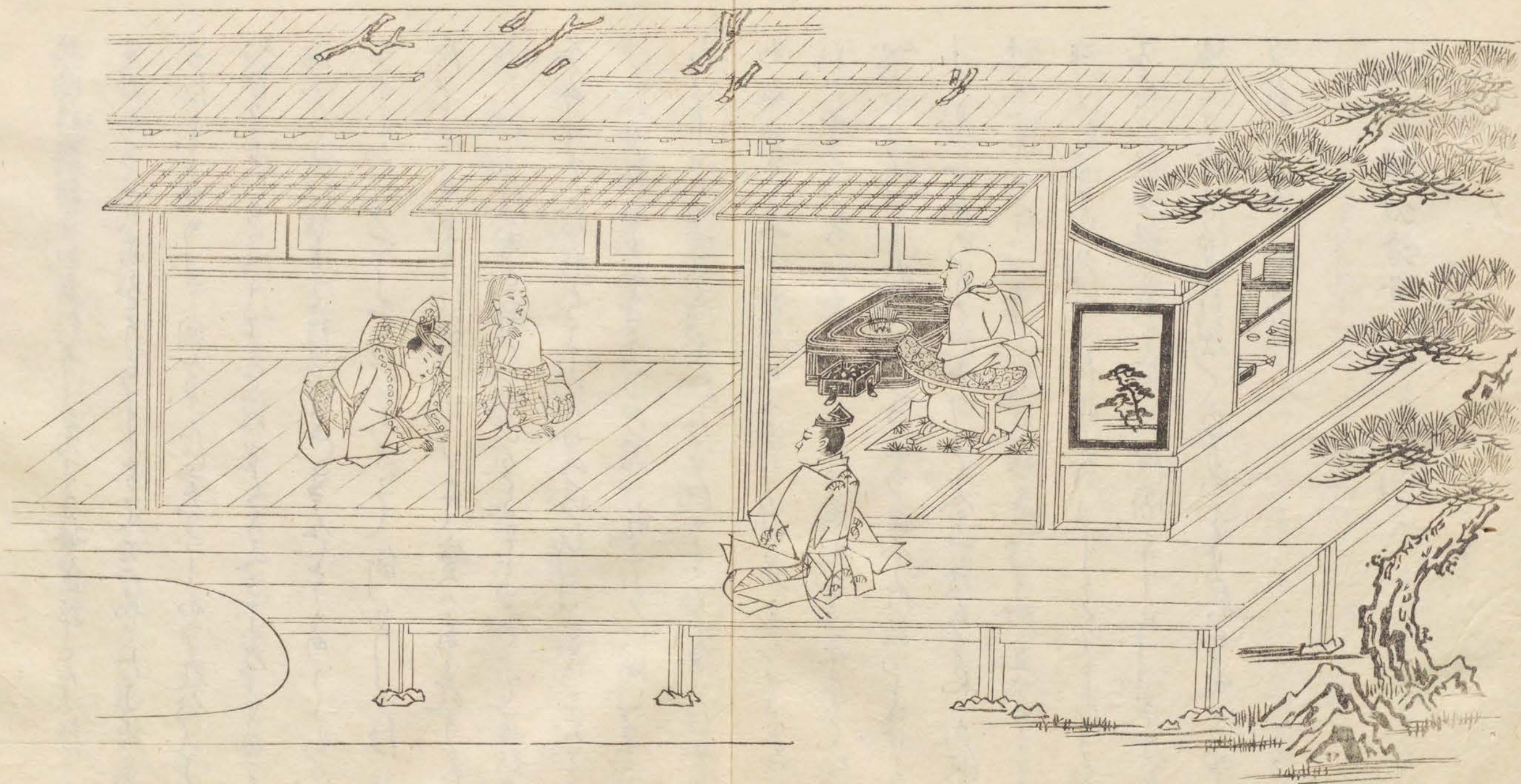
貞觀二年詔して位二階

はとたふけ

隨身公助



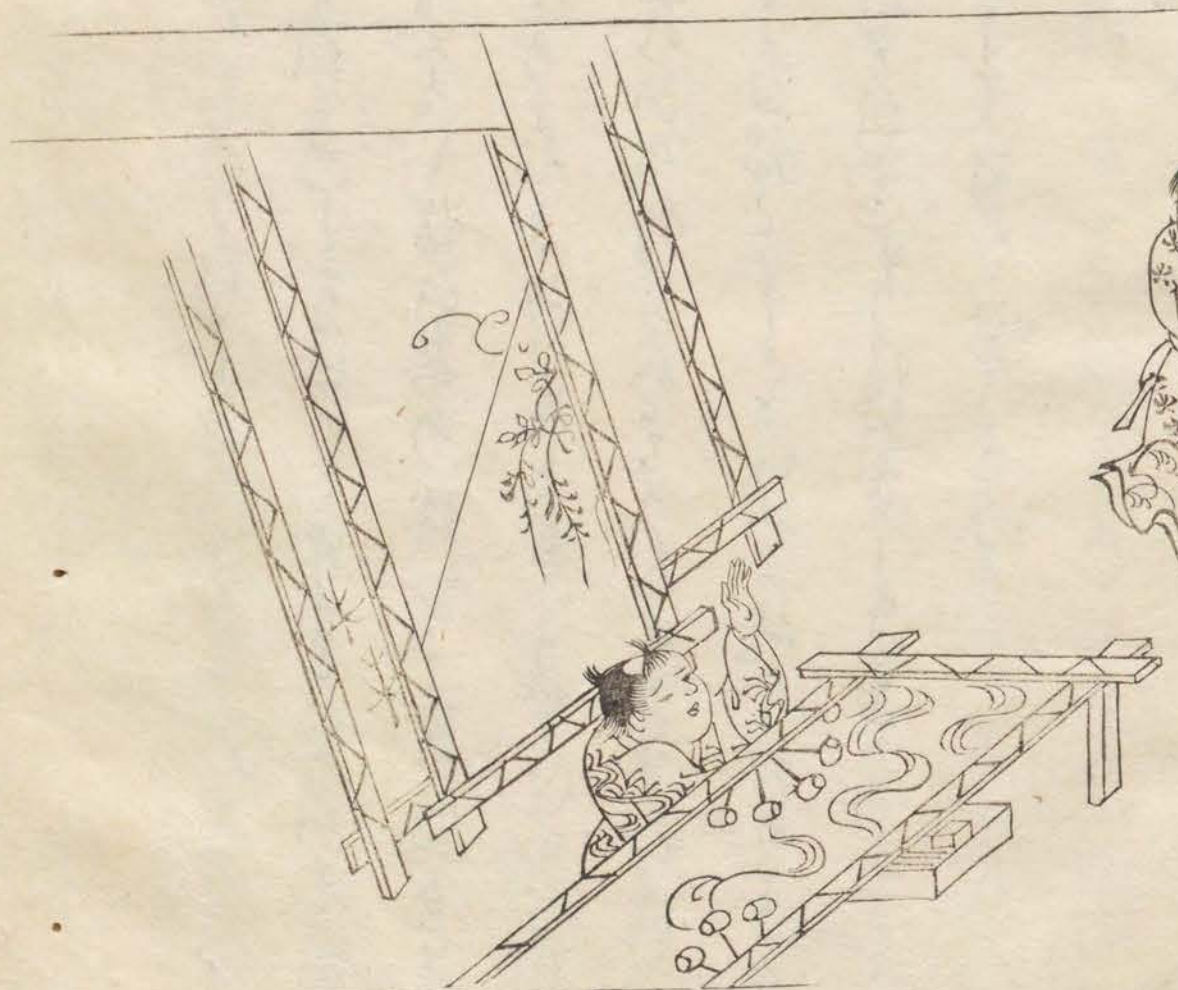


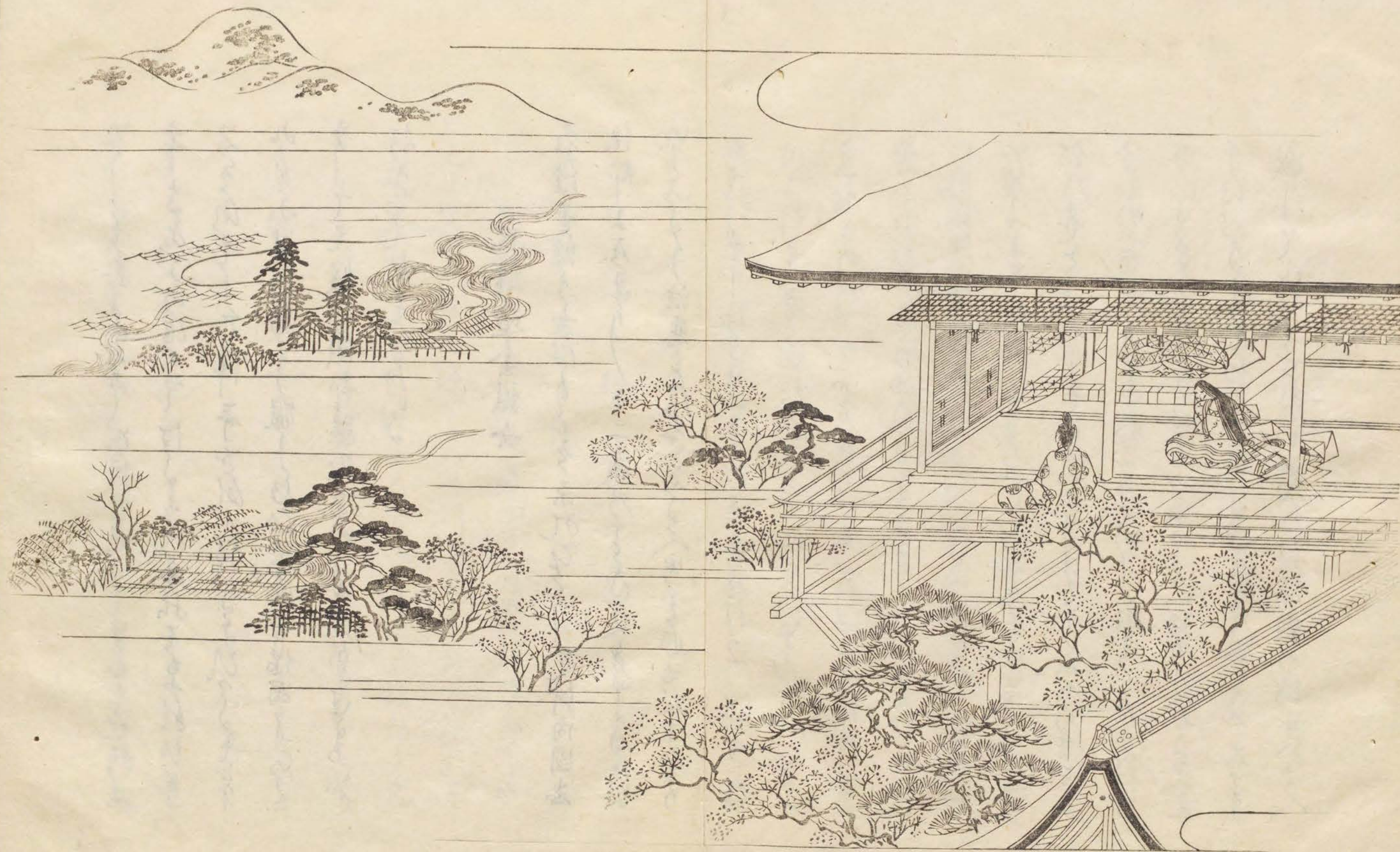


北條時頼朝臣に臣何より老る母をおくりけるう
も母わきもれおをうらゝとて老やけの訴へ出
るはももをきいて同るに哀よりかたん侍とそ
いひくるかくてま子を涙さるゝとよとて母を
訴へるは我れはけりき事をもあゝもろ
をうらむとてはきつゝとて倒れしは腹
たゝもあまりに訴へ出よて實に哀れうと
おもむゝなをきりていひくるまをうて再い
なをてきぬらゝゝに母のいひよもきき
けれは時頼朝臣母をうつの罷りけりいぬ
おゝとていひに同れけるももをきき
めもれもれきぬも母に官日をあらわ
の罷りぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
感歎斜をらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なをらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

繪屋勘兵衛

繪屋勘兵衛は高師小川町に人也おき
画はるをいへるゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



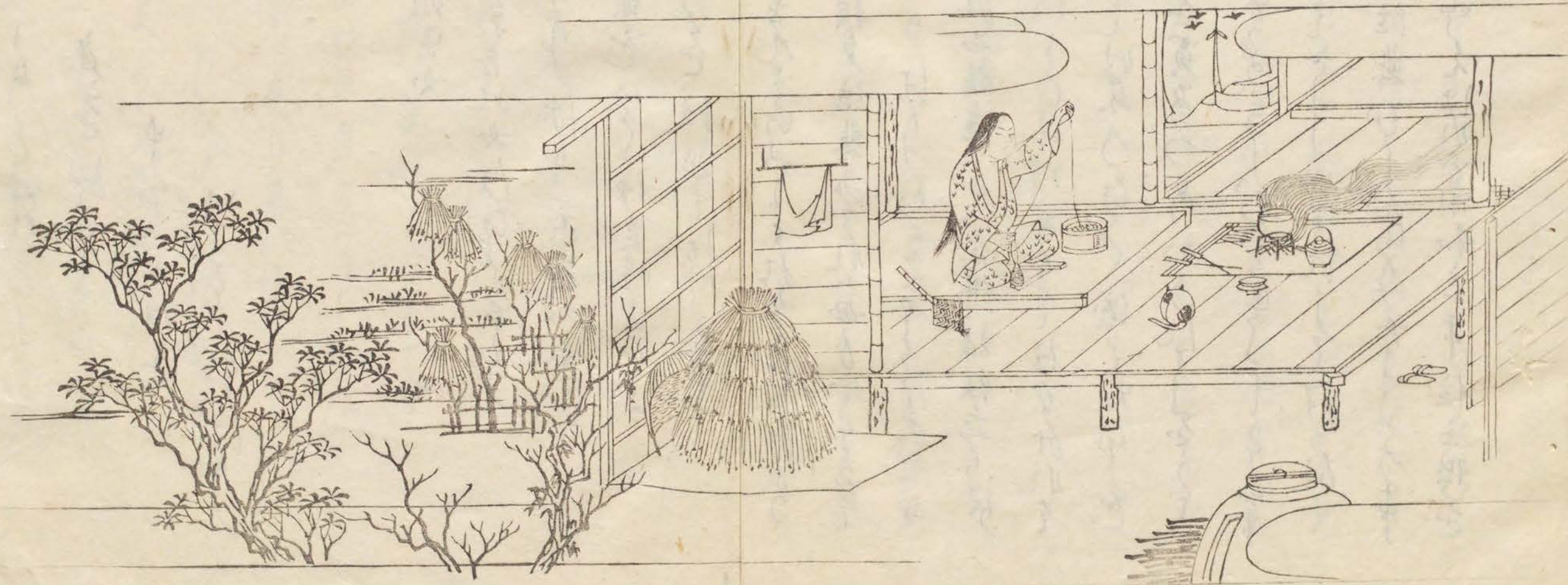
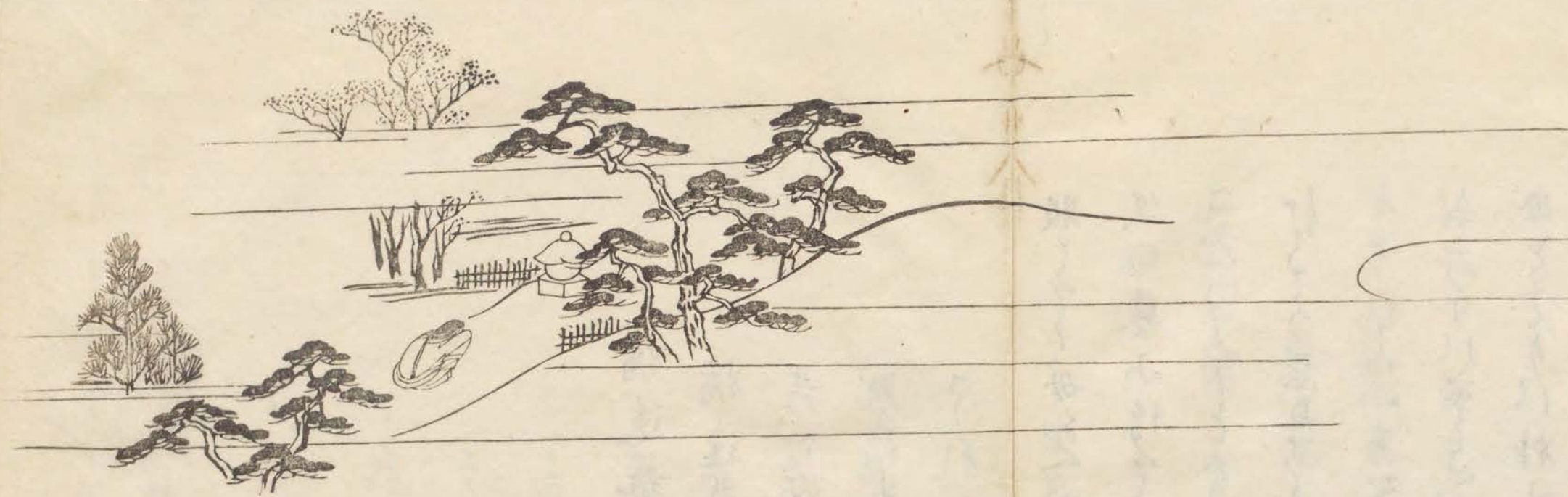


をて舟よのきしを渡へて——もろをせぬ
帝高座ののりては——あれをせぬ
えそめ——と神子をぬれ後——
れ月小漢江島——獵——ぬれ吉備國——
まて兄媛小織部縣をすの——せ兄弟達も知
れをせぬをせけ。

衣縫造金継女

衣縫造継女はりとき京れにありて河内國志
紀郡よりあり——十二歳なりとき父あまのけ
いとい——泣悲なるをる人あそむをねむり

服——母あ嫁さんといふとれ女うけはれ
父の墓ふゆて——朝夕泣悲みぬれ母あまを
二なり——とありけりかて母あまを
け——忘日——必精進——念佛誦經——
くり境内小漢江河——川ありて橋をけれ
冬乃日れ——はれはれ——泣悲みぬれ
母——木本を賣ありめかりに——を
うけ継女の妻なり——むかひ——
——あまのけ——八十に——け
ありけれ——泣悲み——
ねぬやうにぬれ——和と年位と世を



母あはれ

身を終る

まて 田租を

ゆゑにけり

摘逸勢朝臣女

摘逸勢朝臣女はひさなり

孝心深うりけり 承和九年遠

勢朝臣をけり 伊豆嶋よたうの

これけりを泣きけり あはれ

を道く けりゆよけり

警固乃人 答めて道く けり

せむはれ けり けり けり

を道く けり けり けり

遠江國 けり けり けり

遠勢 けり けり けり

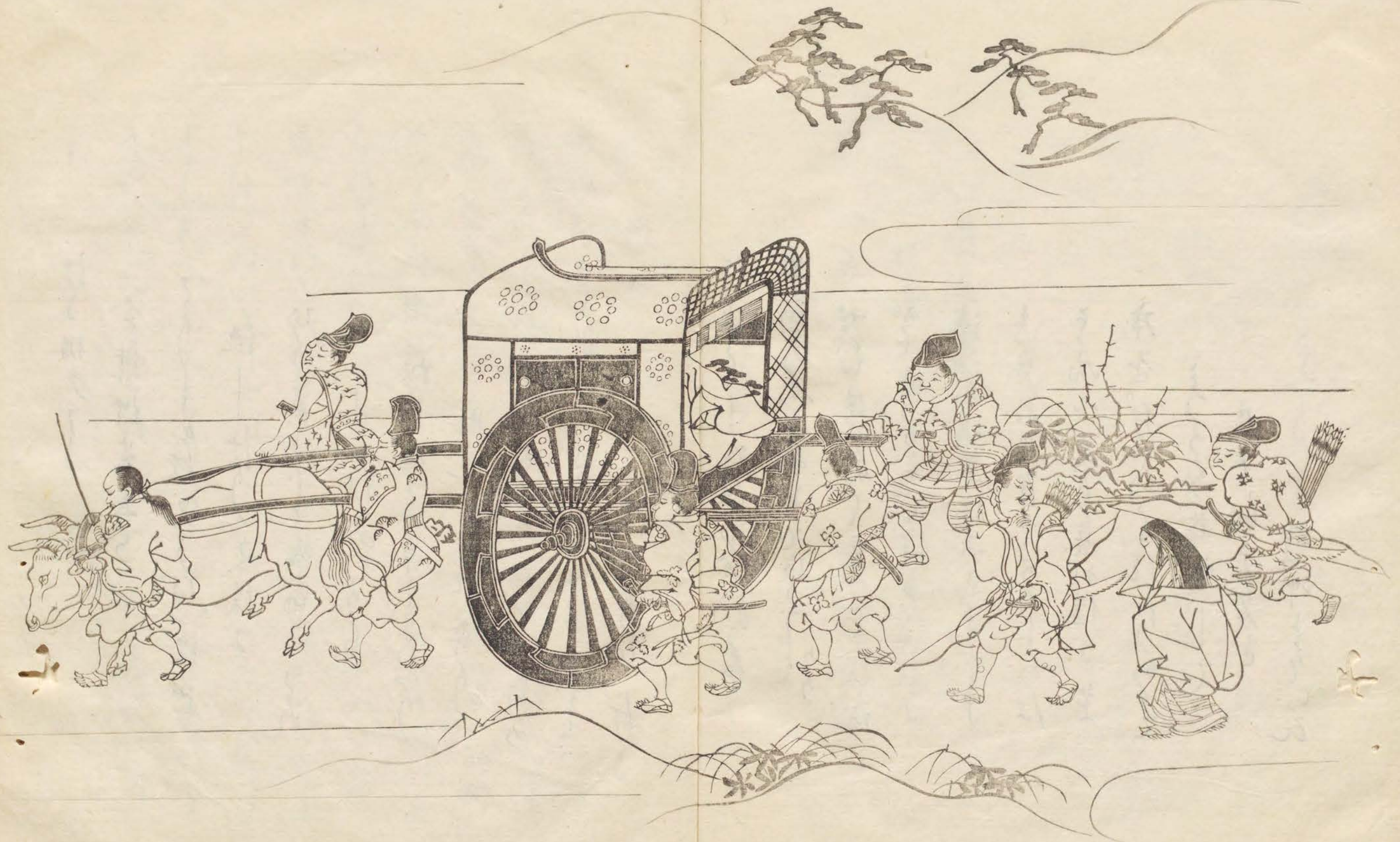
を扇を けり けり けり

虎を けり けり けり

けり けり けり

けり けり けり

妙沖とていふ



けり棚夕

念佛供書

~~~~~かほるる涙色

流ーけり之後

ゆり美るる色ゆるる

~~~~~はみづら

柩を負く京へ

ゆん~~~~~舞り

~~~~~時入るる春の

~~~~~をささる

~~~~~けり

微妙

微妙はもと根さ~~~~~幾か~~~~~いれ子也

~~~~~鎌倉の沈み~~~~~比源家頼朝

比企能負~~~~~聖酌~~~~~ぬるに酎

~~~~~微妙を~~~~~うたひすけ

~~~~~舞~~~~~けれはみ

威嘆~~~~~はな~~~~~河ふ能負頼家頼朝

~~~~~はは舞女~~~~~と京師のいれり

~~~~~か君ふん~~~~~む事のゆる

~~~~~を~~~~~を~~~~~は



